

結果を表す副詞について：

J'ai essayé inutilement de lui téléphoner.

Sur l'adverbe de résultat :

J'ai essayé inutilement de lui téléphoner.

青 井 明

1. はじめに

様態の副詞の中には、様態というよりはむしろ結果を表すと見なすことのできる一群の副詞が存在する。たとえば、つぎの文では、副詞 *mortellement* は動詞 *blessar* の動作様態を表すのではなく、その結果を示している。

(1) a. *Il a mortellement blessé Jean.*

このことは、単に意味的観点だけでなく、以下のように、形態的観点からも *mortellement* を「*d'une manière* + 形容詞」に置き換えると非文法的になることから確かめることができる。

(1) b. **Il a d'une manière mortelle blessé Jean*¹⁾.

一方、動作様態を表す副詞の場合には、*-ment* で終わる副詞であれば、一般に「*d'une manière* + 形容詞」に変えることができる。

(2) a. *Paul a lu la notice attentivement.*

b. *Paul a lu la notice d'une manière attentive.*

このように、一見、動作様態を表すように見える副詞の中には、実際には動作の結果を表す副詞がいくつかある。表題に挙げた文も「無駄に電話を掛けた」というのではなく、「電話を掛けたが、(通話ができずに)無駄になった」の意であって、*inutilement* はやはり結果を含意している。従来、この種の副詞は *en vain*, *vainement* などが個別的に取り上げられることがあったが、小論ではその他の、結果を示しうる副詞と共に、その意味的特徴、構文的特徴を明らかにしようと思う。

2. 結果を表す副詞の分類

まず、結果を表すことができる副詞にはどのようなものがあるか具体的に挙げ、いくつか例を添えることにする。これらの副詞は結果に対する発話者の評価判断を含んでいるかどうか

よって2つに大別することができる。

- A. 発話者の評価判断を含まないもの
mortellement, à mort
lourdement
chaudement
- B. 発話者の評価判断を含むもの
vainement, en vain
inutilement / utilement
infructueusement / fructueusement
sans fruit / avec fruit
sans (aucun) profit / avec profit
sans succès / avec succès
sans effet, sans (aucun) résultat
inefficacement / efficacement
en pure perte, à perte
stérilement
pour rien

まずA類の例から見ていくことにする。

(3) a. Il fut frappé *mortellement* par une balle. (*Logos*, 2085)

(4) a. Pierre a chargé la voiture *lourdement*. (Milner, 103)

これらの文の意味構造は、まずpという事態があり、そこから発生したqという事態が副詞によって表されているものと考えられる。したがって、つぎのようにパラフレーズできるだろう。

(3) b. Il fut frappé par une balle et en mourut.

(4) b. Pierre a tellement chargé la voiture que celle-ci est devenue lourde.

このようにして、(3a)と(4a)ではqという事態は直接示されていないが、*mortellement*, *lourdement* という副詞がそれを表現していることがわかる。

つぎにB類に移ることにしよう。

(5) Hippolyte s'entête *inutilement* à essayer de réparer son poste de radio. (*RE*, 589)

(6) a. J'ai appelé plusieurs fois chez lui, mais *en vain*. (*RM*, 1477)

ここでも、pとqという2つの事態があるが、その関係はA類のような因果関係ではなく、pという事態から予想されるqという事態があり、そのqに対して発話者がなんらかの——ポジティブないしは、ネガティブな——評価判断を下している、という構造になっていると想定される。

たとえば、(6a) をパラフレーズすればつぎのようになる。

- (6) b. J'ai appelé plusieurs fois chez lui, mais je n'ai pas pu le contacter [communiquer avec lui]: c'était vain [inutile] de l'appeler.

(5)、(6a) で、*inutilement* や *en vain* という判断を下しているのは、これらの文を発した発話者であり、文の主語と発話者が一致することもあれば (6a)、一致しないこともある (5)。いずれにせよ、文の主語のほかに、発話者の存在を措定しなければこのような文を解釈するのは難しいだろう。

なお、このような文に関して、N2 が *inutilement*, *utilement* の項でつぎのようなパラフレーズをしているのは、これらの副詞が単に動作の様態を表しているのではないことを示していて興味深い。

- (7) Vous insistez *inutilement*. → Il est inutile d'insister.

- (8) Vous lirez *utilement* ce livre. → Il est utile que vous lisiez ce livre.

これらのパラフレーズに基づけば、*inutilement* と *utilement* という副詞は、それぞれ〈vous insister〉、〈vous lire ce livre〉という陳述に対する発話者自身の評価判断を表していると考えられる。

このように、この B 類の副詞は、*curieusement*, *heureusement* などの評価判断の副詞、あるいは *certainement*, *évidemment* などの真偽判断の副詞と共通した点がある。これらの副詞もつぎのように非人称構文によるパラフレーズが可能だからである。

- (9) *Curieusement*, il a neigé cette nuit.

→ Il est curieux qu'il ait neigé cette nuit.

- (10) *Evidemment*, Paul a tort.

→ Il est évident que Paul a tort.

ただし、これらの副詞と B 類の副詞がまったく同じ構文的分布を示すかどうかは、4 節でさらに詳しく検討することにする。

3. 意味的特徴

3.1. 結果の属詞

小論では、ある種の副詞を「結果の副詞」(*adverbe de résultat*) と名付けたが、このような名称がすでにあるかどうか寡聞にして知らない。ただ、Brunot (1936) の「結果の属詞」(*attribut de résultat*) という概念が非常に参考になったので、以下に記しておこう。

Brunot はつぎの 2 つの文を比較して、

- (11) il mourut colonel.

- (12) il a vécu vieux.

(11) 中の動詞は “une action qui n’a point pour effet de rendre l’attribut applicable au sujet” を表しているが、一方、(12) 中の動詞は “une action dont le résultat est que l’attribut appartienne au sujet” を表していると述べている。つまり、(11) の colonel は mourir の結果を表しているわけではないが、(12) の vivre vieux の方は換言すれば prolonger la vie, de façon à parvenir à la vieillesse ということであって、vieux は vivre という行為の結果としての状態を示している、というのである。

そして、結果の属詞をつぎのように定義している。

Ils (= les attributs de résultat) marquent en effet un résultat de l’action subjective, qui est de mettre le sujet dans une situation donnée, et cette application trouverait son usage ailleurs pour des attributs de verbes objectifs²⁾.

Brunot によれば、結果の属詞を構成できる動詞はきわめて限られていて (たとえば、tomber mort)、さらに結果の属詞かどうか判定するのは困難な場合があるということである。

このような考え方を参考にして、副詞においても、動作の結果を表しうる副詞を、従来の動作様態の副詞と区別するというのが小論の狙いである。

3.2. 結果の副詞

すでに 2 節でも部分的に示した、結果を表す副詞の意味構造をここでまとめておくことにする。この種の副詞の共通点は p という事態から生じた(あるいは、生じる)結果 q が副詞によって表現される形式を取っていることである。A 類の副詞の場合には、p と q は因果関係で結ばれているが、B 類の副詞の場合には、もう少し複雑である。すなわち、p という事態から予想される結果 q に対する発話者の評価判断が副詞によって表現されているのである。予想に対する判断はネガティブなこともあれば (en vain, vainement, inutilement . . .)、ポジティブなこともある (utilement, fructueusement, efficacement . . .)。

さて、en vain の意味については Mel’cuk (1992) ではつぎのように分析・記述されている。

[X, qui s’attend à ce que son action P donne le résultat qu’il escompte, P-e] sans obtenir le résultat escompté³⁾.

X は第 1 行為項 (premier actant) を表すので、結局、文の主語ということなる。Mel’cuk によると、en vain は文の主語が自分の行為によって期待した結果が得られると予想するが、それが得られないことを表す、と分析していて、特に発話者の存在を指摘していない。しかし、つぎのような文を見ると、つねに文の主語がその行為の結果を予想するわけではないということが感得されるだろう。

(13) Tu l’attendras ici *en vain*: il ne vient pas aujourd’hui.

attendre の目的である le voir [rencontrer] などの結果が得られないと判断しているのは、文主語の tu ではなくて、この文の発話者だからである。

また、泉 (1995) もつぎのような分析をしている。

(...) 副詞的表現 *en vain* (ならびに *vainement*) は、「述語 *p* で表される行為を、行為主体が何らかの結果 *r* を引き出す目的で意図的に行うものと捉えた上で、*r* は *p* によっては引き出されないと判断し、行為主体が *p* を実現することにマイナスの評価を与えるマーク」と考えられる。そこで、結果を見越しての判断、評価を下すことから、これを見越しの副詞(句)と名付けることにする⁴⁾。

ここでは「行為主体」という言葉を使っているが、上述したように、結果 *r* に対してマイナスの評価を与えるのは、必ずしも行為主体とは限らない、むしろ、文の発話者である。

なお、*en vain*, *vainement* を「見越しの副詞(句)」と呼んでいるが、「見越す」というのは普通「未来を推しはかる。将来を見通す。」(広辞苑)の意であるから、つぎのような例では、「見越し」と言えるかもしれない。

(14) Vous protestez *en vain*: il ne cèdera à personne.

しかし、泉氏自身も挙げている以下の例では、文の主語(そして発話者)は期待した結果が無駄に終わったことをすでに知っていて、それを述べているのだから、「見越し」という表現はそぐわないと思われる。

(15) Je l'ai attendu *en vain*: il n'est pas venu! (N2, 966)

この種の副詞の特性は、見越す——予想する——という点にあるよりはむしろ、ある事態とその結果を同時に表現するところにあると考えられるので、やはり「結果の副詞」と名付けるのが妥当ではないだろうか。

3.3. 動詞との結合傾向

泉氏もつとに指摘しているように⁵⁾、副詞が結果を表すことから、動詞との間に共起制限とまでは言えないが、ある種の結合の傾向が見られる。それは、事態 *p* に含まれる述語は一般にその結果が比較的容易に想定されるものである。たとえば、*mortellement* は(比喩的な用法を除いて)しばしば *blessar*, *frapper* などと共に現れるが、これは *blessar*, *frapper* などが *mourir* という結果を引き起こしうるからである。

(16) Le CRS a *mortellement* blessé le manifestant. (Milner, 103)

それに対して、述語それ自身が結果・成果を表すような場合には、不自然であったり、容認不可になったりする。

(17) ?Il a échoué à l'oral *sans succès*.

(18) Il {a projeté / *a réalisé} *en vain* un voyage en Indes.

このようにして、ネガティブな結果を表す副詞(句)はしばしば、結果を想定しやすい動詞、

たとえば *chercher*, *attendre* など共に使われる。なぜなら、これらの動詞は容易に (re)trouver, découvrir, (re)voir, rencontrerなどを予想させるからである。

(19) Il chercha *en vain* une sonnette. Il appela sans obtenir de réponse. (Simenon, *Crime*, 12)

さらに、意図・願望・依頼など、広い意味で意思を表す動詞 (*chercher à*, *essayer de*, *tenter de*, *s'efforcer de*; *vouloir*, *désirer*, *espérer*; *demander*, *prier*, *supplier*, *solliciter*; *protester*, *insister*...) はある目的・目標を含意するので、それが結果を表すことになり、これもしばしば用いられる。

(20) J'ai essayé de lui parler, mais *sans succès*! Tant pis! (NI, 694)

(21) Il la (= la langue anglaise) parlait lui-même correctement, avec, peut-être, un rien d'affection, une torsion de la bouche commune à ceux qui veulent *en vain* adopter l'accent. (Simenon, *Charretier*, 82)

(22) *En vain* supplia-t-elle ces hommes. (*Syntagmatique*, 376)

(23) Vous insistez *inutilement*. (N2, 528)

なお、ポジティブな意味を持つ副詞(句)の場合には、Brunotが結果の属詞について述べていたように(3.1.)、結果を表すのか、それとも動作様態を表すのか判然としないことがある。たとえば、つぎのような例である。

(24) a. Marion nous a aidés *efficacement*. (HJ, 338)

この場合、動作様態と解釈すれば、つぎのようにパラフレーズできる。

(24) b. Marion nous a aidés d'une manière efficace.

c. Marion nous a donné une aide efficace.

事実、HJでは(24a)の例を挙げた後、*efficacement*を *d'une manière efficace* と言い換えている。しかし、一方、結果を表していると考えれば、つぎのようにもパラフレーズできる。

(24) d. Marion nous a aidés, si bien que nous avons eu un résultat satisfaisant.

DFCが *efficacement* で示している言い換えは上記と似たものである。

このほか、*utilement*, *fructueusement*, *avec fruit*, *avec profit*, *avec succès* など、ポジティブな意味の場合には多少なりともあいまいな場合がある。これは、人間は一般に、ポジティブな目的を目指して、あるいはポジティブな結果を期待して行動する傾向があるので、その場合には動作様態の副詞と解釈され、それに対して、結果的に満足すべき成果を得られたという場合には、結果の副詞と解釈されるからであると、考えられる。一方、ネガティブな結果の場合にはほとんどつねに結果の副詞と解釈されるのは、これも一般的に言って、ネガティブな結果を指向することはないからである。そこで、しかるべき結果を期待したり、予想したりしたにもかかわらず、結果的にネガティブな結果に終わったときには、動作様態を表さないと考えられる。

4. 構文的特徴

ここで、結果を表す副詞を含む文の構文的特徴をまとめることにする。

4.1. これは構文的と言うよりはむしろ、形態的特性と言うべきかもしれないが、1節でも触れたように、-mentで終わる副詞の場合には、「d'une manière + 形容詞」に置き換えると、容認不可になったり、別の意味——つまり、動作様態——になったりする。

- (25) a. Il a *mortellement* blessé Jean. (= (1) a.)
b. *Il a d'une manière mortelle blessé Jean. (= (1) b.)

4.2. つぎに、結果の副詞を含む文は、事態 p とその結果である q の2つの節にパラフレーズすることができる。p と q が因果関係や、継起を表す場合には両者は et で接続できるし、q が予想や期待に反する結果の場合には、mais でつなぐことができる。

- (26) a. Il fut frappé *mortellement* par une balle. (= (3) a.)
b. Il fut frappé par une balle et en mourut. (= (3) b.)
(27) a. J'ai couru *inutilement* à sa recherche. (Logos, 1683)
b. J'ai couru à sa recherche, mais je n'ai pas pu le (re)trouver [rencontrer, revoir]: c'était inutile de le chercher.

4.3. そして、結果に対する評価判断を含む場合には、その判断を下すのは一般的に発話者であると考えられる。たとえば、つぎの文で、utilement と見なしているのは、文の主語 vousではなく、その文の発話者である。

- (28) a. Vous pouvez *utilement* lire cet ouvrage. (DFC, 1182)

このことは、つぎのようにパラフレーズできることから確かめられよう。

- (28) b. Si vous lisez cet ouvrage, (je pense que) cette lecture vous sera utile.

あるいは、つぎの例でも、en pure perte は dépenser ses paroles の結果を示していて、そのような判断を下しているのは、発話者と文の主語 il であり、なぜそのような判断を下したかが car 以下で示されている。

- (29) Mais, bientôt, Hendrikk Wersteeg cessa de parler. Il dépensait ses paroles *en pure perte*, car l'inconnu ne lui répondait pas et ne semblait même point l'écouter. (Apollinaire, *Matelot*, 177)

このようにして、普通は評価判断を下すのは発話者であると思われるが、実際に用いられることはほとんどないかもしれないが、疑問文になると事情が変わってくる。疑問文では、発話者ではなく、その対話者に評価判断を求めることになるからである。

- (30) a. Est-ce que je proteste *inutilement* ?
b. Est-ce que vous protestez *inutilement* ?
c. Est-ce qu'il proteste *inutilement* ?

これらの文はつぎのようにパラフレーズできるので、*inutile* と判断を下しているのは発話者ではなく、対話者であることがわかる。

(30) d. Dites-moi si vous trouvez inutile que je proteste [que vous protestez, qu'il proteste].

以上の観察を通して、断定文 (*phrase assertive*) のときは発話者が、疑問文のときは対話者が判断を下していると考えられる。

4.4. つぎに、結果を表す副詞が、文全体を修飾する文副詞なのか、それとも、文中の何らかの構成素を修飾する構成素副詞なのかを検討することにする。従来も、これら2つの副詞の機能についてはさまざまな論議がなされてきたが⁶⁾、文副詞か構成素副詞かの判定を下す基準は一応つぎのようにまとめられる。すなわち、文副詞は否定文の文頭に立つことができ、かつ、分裂文 *c'est ... que* の焦点位置には現れることができない、というものである。

(31) *Sottement*, Jules n'a pas répondu à la question de Sophie.

(32) **C'est sottement* que Jules n'a pas répondu à la question de Sophie.

それに対して、構成素副詞の場合には、文副詞とは逆に、否定文の文頭には立つことができないが、分裂文の焦点位置には現れることができる、というものである。

(33) **Attentivement*, Jules n'a pas lu la notice.

(34) *C'est attentivement* que Jules a lu la notice.

なお、構成素副詞の場合には、程度 (*très*)、数量 (*beaucoup, peu*)、様態 (*bien, mal, courageusement*)、時 (*hier, longtemps, souvent*)、場所 (*ici, partout*) など、さまざまなタイプがあるので、両方の条件を満たすものもあれば、どちらか一方の条件しか満たさないもある。

さて、このような構文的テストを結果の副詞(句)に適用するとどうなるだろうか。まず、否定文の文頭に立つことができるかどうかテストすると、不可である。

(35) **Mortellement*, le CRS n'a pas blessé le manifestant.

(36) **Vainement*, je n'ai pas tenté de le persuader.

文副詞の場合には、2つの条件を満たさなければならないから、これだけでもすでに、文副詞ではないと言えるのだが、分裂文の場合をしてみる。すると、今度は容認可能な文になる。

(37) *C'est en vain* qu'on essaya de les ranimer (...). (Simenon, *Mystères*, 108)

(38) *Quoi donc! c'est vainement* qu'ici nous nous aimâmes! (Hugo cité dans *GR*, 5-403)

(39) *C'est en pure perte* qu'Angèle, l'institutrice, se démène pour Colle et Rat. (*RE*, 795)

2節で、結果の副詞の中でも評価判断を含むものは、非人称構文にパラフレーズできる点で評価判断や真偽判断の文副詞と共通する点があると述べたが、上記のような基準で見ると、やはり文副詞とは言えないことがわかる。

さて、泉氏が *en vain* と *vainement* を比べて、前者は結果節に単独に現れるが、後者は現れないという点から、*en vain* は文副詞、*vainement* は動詞副詞と見なしている。

(40) *J'ai essayé de me débrouiller, mais en vain / *vainement.* (泉、77)

しかし、このような分布だけで、文副詞か否かを決定することはできない。上でも見たように、*en vain* も *vainement* も文副詞としての特性を備えていないのだから、構成素副詞と言わざるをえないのである。

なお、結果節で単独に使えるかどうかは個人差があるように思われる。私のたずねたフランス人は、(40)の例では、*vainement* に ? マークを付したが、不可というわけではないと答えた。そして、(結果を表す) *en vain*, *vainement*, *inutilement* などはやや *littéraire* な表現であるとコメントしてくれた⁷⁾。

つぎは *littéraire* な例ではあるが、*vainement* を用いているので、結果節では *vainement* を単独には使えないと断定はできないだろう。

(41) (...) *nous guettâmes avec anxiété l'occasion de nous baigner, mais vainement*; (...) (Baudelaire cité dans *GR*, 8-293)

4. 5. 最後に、肯定文の文頭に位置できるかどうかについて触れておく。*en vain*, *vainement*, *inutilement* といった副詞(句)は文頭に置かれることがあり、文学的表現では主語倒置が起きることが知られている。

(42) *Vainement* on voudrait remonter au temps où ce sable était roche; (...) (Alain cité dans *TLF*, 16-889)

(43) *Vainement* lui disait-il: "C'est moi seul qui t'ai choisie..." (Mauriac, cité par Grevisse, *Le bon usage*, 181)

(44) *En vain* je lui avais tout expliqué. (Blinkenberg, *Ordre*, 1-140).

(45) Mais *en vain* enfonça-t-on des gaffes dans les directions désignées. (Simenon, *Charretier*, 117)

(46) (...) bien *inutilement* se défend-il d'avoir écrit un guide. (Blinkenberg, *Ordre*, 1-140)

このように、文頭に位置すると、主語の倒置を引き起こすという点では、ほかに真偽判断を表す副詞(句) (*sans doute*, *peut-être*, *probablement*)、接続の副詞 (*aussi*) などがよく知られており、これらの副詞(句)がいずれも文副詞であることから、*en vain*, *vainement*, *inutilement* などの結果の副詞(句)も文副詞的性質を持っているように見えるが、しかし、4. 4. で見たように明らかに文副詞ではないので、構成素副詞の中では、より文副詞に近いものと言えるだろう⁸⁾。

5. ま と め

以上、結果を表す副詞が成立する条件を、意味的、形態的、構文的な観点から探ってきた。ところで、しばしば同じ副詞がいくつかの用法を持つことがある。たとえば、つぎの文中の

franchement は (47) では発話者の言表態度を表し、(48) では動作様態を示し、(49) では程度を表す。

(47) *Franchement*, je trouve que vous avez tort.

(48) Répondez-moi *franchement*.

(49) Cette jupe est *franchement* laide.

同様にして、結果の副詞もつねに必ず結果を示すというわけではない。結果とも動作様態とも解釈されることがあるのは 3. 3. でも見た通りである。-ment で終わる副詞は本来的には様態を表すわけだが、これが述語動詞の結果を含意するのに用いられることから (blesser mortellement, chercher en vain, attendre inutilement ...)、結果を示すようになったと考えられる。したがって、この「結果の副詞」というのは、圧縮され、省略された表現と見なすことができ、そのため、人によってはやや littéraire な印象を受けるのだと考えられよう。

そのように考えれば、様態の副詞と結果の副詞の関係、様態の副詞そのものの再検討など、なお考察すべき問題がある。さらに、結果の属詞や、avoir beau + *inf.* などの動詞句と共に、「結果を表す表現」として概括することも可能であろう。いずれ、稿を改めて論じるつもりである。

注

- 1) この例は Gary-Prieur (1982: 19) に基づくが、ここでは、「d'une manière + 形容詞」によるパラフレーズはすべての様態の副詞に適用できるとは限らないと述べていて、mortellement が「様態」ではなく「結果」を表す副詞であると言っているわけではない。なお、Milner (1978: 103) がすでに Gary-Prieur と同様の指摘をしている。
- 2) Brunot (1936), p. 619.
- 3) Mel'cuk (1992), p. 200.
- 4) 泉 (1995), p. 77.
- 5) 泉 (1995), p. 77–78.
- 6) 従来の副詞の分類については、青井 (1996a) 参照。
- 7) インフォーマントは Xavier Bureau 氏 (ICU、語学科専任講師)。ここに記して感謝する。
- 8) このように、副詞を単に文副詞と構成素副詞に二分せずに、段階的に捉える見方については、青井 (1996b) 参照。

参考文献

- 青井 明「副詞の機能と分類について」『フランス語研究』30: 67–73、1996 年 a。
——「フランス語副詞分類の問題点」*Sophia Linguistica*, 40: 59–71、1996 年 b。
Andreas Blinkenberg, *L'ordre des mots en français moderne*, (Munskgaard, 1969).
Ferdinand Brunot, *La pensée et la langue*, (Masson, 1936).
Marie-Noël Gary-Prieur, “Adverbe de manière: que signifie cette étiquette?”, *Lexique 1, adverbe en -ment*, (Presse Universitaire de Lille, 1982), pp. 13–23.
Maurice Grevisse, *Le bon usage*, (Duculot, 1980).
泉 邦寿「見越しの副詞(句) en vain, vainement」『フランス語学研究』29: 77–79、1995 年。
Igor Mel'cuk, *Dictionnaire explicatif et combinatoire du français contemporain*, III, (Les Presses de l'Université de Montréal, 1992).

Jean-Claude Milner, *De la syntaxe à l'interprétation*, (Seuil, 1978).

引 例 書 目

Guillaume Apollinaire, “Le matelot d’Amsterdam”, *Œvres en prose*, I, (Gallimard, 1977).

DFC: *Dictionnaire du français contemporain*, (Larousse, 1967).

GR: *Le Grand Robert de la langue française*, t. 1–9, (Robert, 1985)

HJ: *Dictionnaire Hachette Juniors*, (Hachette, 1980).

Logos, *Grand dictionnaire de la langue française*, (Bordas, 1976).

N1, N2: *Dictionnaire du français langue étrangère, Niveau 1, Niveau 2*, (Larousse, 1979).

RE: *Le Petit Robert des enfants*, (Robert, 1990).

RM: *Le Robert méthodique*, (Robert, 1982).

Georges Simenon, *Le charretier de “La Providence”*, (Le livre de poche, 1971).

———, *Un crime en Hollande*, (Le livre de poche, 1972).

———, *Les 13 mystères*, (Le livre de poche, 1975).

Syntagmatique: *Dictionnaire syntagmatique du français*, (Shufunotomo Co., 1978).

TLF: *Le trésor de la langue française*, t. 1–16, (Klincksieck, Gallimard, 1971–1995).